

15. 子供の生活圏

生活科は、子供が身近な人々や社会、自然とのかかわりを通して学ぶ学習です。そういう意味から子供にとって、身近な自然や社会とはどういう場所なのだろうかと子供の立場になって子供の活動場所、学習の場所を考えておくことが大切です。

それは、ただ単に活動場所を捉えることにとどまらず、日常、子供は、どこで（場所）・どんなこと（内容）をしているのか、子供の生活圏を捉えておくことが求められます。

子供の生活圏を重視する生活科

生活科の学習の第1の特質は、子供の身近な生活圏を活動や体験の場や活動（学習）対象にするということである。

すなわち、子供が身近な生活圏と呼び得る範囲において、人、社会、自然と直接かかわりながら、自らの興味・関心を發揮して具体的な活動や体験を行うのである。

第2の特質は、人、社会、自然を一体的に扱うという点にある。

子供は、身近な生活圏で出会う人、社会、自然を一体的に感じ取る。それらを客観的に区別しながら認識したり理解したりするのではない。自分とのかかわりで一体的に捉えるということである。

— 実践から —

校区探検の活動では、生活科の学習を通して、日常身近でありながら気付かなかつたことに気付いたり、発見したりします。そして、その学習で得たことが自分の生活に返ることが大切です。そういう意味からも、教師は事前に子供の生活圏を捉える中で、子供がどんなことに興味や関心を示し、どんな内容を調べ、どのように表現していくのかを考えて計画していくことが求められます。

そのためには、まず、子供の興味・関心を探り、広い視野に立って活動範囲や活動内容を考え、いろいろな探検の可能性を考えることが大切です。次に、その考えを基に、学級や学年の実態に合った探検の方法（課題別、方面別グループ、探検の回数など）や探検の内容（どんな視点で探検させるかななど）を考えていくとよいでしょう。